

討論会の記録

第三回総会を午前中にすまして、午後一時過ぎより野毛地区センターで「神奈川地域史研究の現状と課題」というテーマで公開討論会が行なわれた。計六名の会員より四つの問題提起がなされ、それ

らについての活発な討論が展開された。問題提起の題は次の通りである。

自治体史編纂・文書館の状況
市民・歴史学習の今日的課題
文化財・遺跡保存運動の状況
婦人の学習会、女性史研究

一、自治体史編纂・文書館の状況

まず大湖氏より神奈川の県市町村史編纂の動向と題して報告があった。かなり多くの市町村史の巻構成、執筆者、編纂期間などをまとめた労作である。現在刊行中のものとすでに終了したものがあがるが、横須賀、逗子などの行政主導型のものも多い。逗子などは八年間という期間での刊行に苦しんでいるようである。画期的なものとしては、相模原市史があげられる。市史編纂のタイプをつくりあげたものといえそうである。そのあと刊行された市町村史のなかには形だけまねているものが多い。また中央の学者の請負い型も多い。

次に内田氏より市町村史編纂の理念の特徴について、戦前と違って戦後はお国自慢のものを避けるようになってきているが、なぜ編纂をするかという理念が欠けた説得力がないものが多いとの話があった。

二、市民・歴史学習の今日的課題

新井氏より次のような報告があった。—研究者と地域研究グループとの間には断絶、断層が存在している。しかしながら「掘り起こし」にみられる資料発掘によって膨大な史資料が集積されるようになった。

三、文化財・遺跡保存運動の状況

伊東氏より上行寺東遺跡をめぐる報告があった。遺跡保存は運動にもかかわらず結局部分的なものに終わり、現状を維持したとは

とてもいえないとのことであった。

次に植山氏より横浜市の文化財保護行政について港北ニュータウン地域を例に報告がなされた。昭和四四年以降ある程度の保護の位置づけが行なわれるようになったとのことである。

四、婦人の学習会、女性史研究

かながわ女性プラン（一九八二年）に出ており、国よりはかなり早く、行政側の積極的な姿勢が目立つ。県内の学習会、女性史サークルの中には講座の受講だけでは満足せず、さらに勉強を続けていくという人々のグループが多い、といった報告が奥田和美氏よりなされた。

これらの報告の後、討論に入った。どのような意見が出たか簡単に書き記したい。

一、自治体史編纂・文書館の状況

- 。高度経済成長以後出てきたものは個性的な魅力に乏しいものが多い。
- 。天皇制国家を肯定するような地域史がある。
- 。地域は日本の場合、行政区分であって生活実感と一致していない。
- 。歴史学としての自治体史というものがない。
- 。京浜地域の市史には立派なものがない。
- 。地域の問題を一般的なものに還元していくことが必要である。

二、市民・歴史学習の今日的課題

- 。行政とかかわりをもたない会は長続きする。
- 。社会教育という枠では歴史教育は難しい。
- 。権力から手を切って連帯を深めていくのが市民の研究。
- 。歴史の研究者、教育者とは違った角度から勉強したい。

三、文化財・遺跡保存運動の状況

- 。文化財として保存するのではなく単なる学術の対象としての保護が多い。
- 。遺跡保存は町づくりとかかわってくるから単純にはいかない。
- 。鎌倉の古都保存は権力中心の評価からなされている。

四、婦人の学習会、女性史研究

- 。時間と金のかからない活動形態が求められている。
- 。場所確保のために行政とかかわるのはやむを得ないし、いちがいに悪いとは言えない。
- 。働いている女性とそうでない人との分化。

(文責・青山永久)

